



# 風景の句読点

Punctuation

第17回

海岸線から高所にまで続く枕状溶岩と海蝕洞  
(父島・天之浦付近)

株式会社ニュージェック

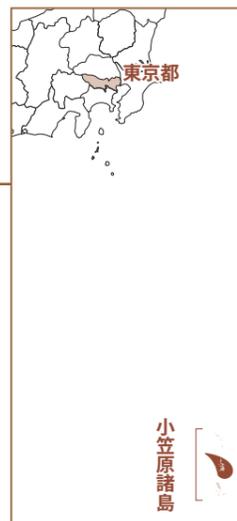
高見 元久 TAKAMI Motohisa (会誌編集専門委員)

## 小笠原の枕状溶岩

間近に見る太古の地球の営み  
(東京都小笠原村)

### 世界自然遺産『小笠原諸島』

小笠原諸島は、東京の南南東約1,000kmに位置し、これまで一度も大陸と陸続きにならなかったことがない絶海の島々である。そのため、偶然、島にたどり着いた種子や生物がその後の適応・進化によって独自の生態系を築き、生物の固有種率が極めて高い。これらの豊かで独特な自然価値が認められ、2011年に世界自然遺産に登録されたことはよく知られていることであろう。手付かずの美しい海や子育て中のザトウクジラなどが島周辺で見られることもあって、年間を通して観光客が訪れており、自然環境の維持のため、外部から生き物を持ち込ませない対策や外来種の捕獲も、積極的に行われている。



小笠原諸島

「風景の句読点」は、私たちの心に句読点を打ち、思わず足を止めたくくなるような素晴らしい風景について、その成り立ちや魅力の源泉を紹介するコーナーです。

### 生き物ばかりじゃない、火山岩の島に見る『枕状溶岩』

こうした生物学的な側面とは別に、小笠原諸島の成り立ちに起因する地質学的な特徴も島を訪れる上で外すことができない見どころであり、ぜひ紹介したい。

小笠原諸島は、太平洋プレートがフィリピン海プレートに沈み込むことで海底が隆起し、大昔(今から4千数百万年ほど前)の海底火山の噴出物が海上に姿を現したもので、島の大部分が火山岩でできており、これらの火山噴出物を目にするると太古の地球の営みを間近に感じることができる。特に、海底で噴出したマグマが急冷することによって、枕や米俵を積み重ねたような形状となる『枕状溶岩』は見逃せない。この枕状溶岩は、今でも活発な活動を続けるハワイ島周辺の海底でマグマが冷却して溶岩ができる様子が捉えられ、その成因の謎が解けたことが記憶に新しい。

### 枕状溶岩の見どころ

小笠原諸島においては、複数の島々で枕状溶岩を見ることができる。特に父島では、海面から数百mの高さまでこの枕状溶岩が分布しており、これほど大規模に確認できる場所は国内では数少ない。観光客に人気の千尋岩(ハートロック)の近くでは、海岸線からそそり立つ標高200mほどの崖の頂部にいたるまで枕状溶岩を見つけることができる。その規模から、そこで数えきれないほどの海底噴火があったことを感じることができると同時に、父島の周囲の海面下にも多くの枕状溶岩が広がっているであろうという想像が広がる。

枕状溶岩は、崖が波に洗われる海岸線付近において特に顕著に見ることができ、たとえば、小港海岸では1つ1つの枕の外縁部が黒色を帯び、枕の内部は風化により淡い褐色で、独特の模様を作り出している。



枕状溶岩の大露頭(父島・千尋岩西方)

### 小笠原の玄関口で歓迎する枕状溶岩たち

東京・竹芝から定期客船で小笠原へ向かい、父島に入港する直前の進行方向左手の烏帽子岩、右手の野羊山岩壁にぜひ注目してほしい。特徴的な枕状溶岩が姿を見せ、本土とは全く趣の異なる風景を感じることができるはずである。また、父島南部の海岸線や聶島列島では、侵食崖や海蝕洞に、多様な形状・大きさ・色彩の枕状溶岩を見ることができる。小笠原諸島を訪問する折には、これらの枕状溶岩の崖に注目することで地球のダイナミズムを感じることができること間違いなしである。



海岸付近の枕状溶岩(父島・小港海岸)